

## 平成29年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の 特徴	法人:創立より25年を迎え施設数18、職員数1200名を超える法人の成長。昨年10月特養1施設・今年4月サービス付き高齢者住宅を開設。平成30年には千葉県特養が増床移転を予定。新潟を拠点とし広域に事業を展開しています。 事業所:住み慣れた自宅での生活を継続できるように、お客様個々のニーズに合わせたサービスを提供しています。単身世帯が増加する中、生活の中の困りごとに寄り添い「通い」「泊り」「訪問」のサービスを調整し在宅生活を支えられるように努めています。
事業所名	健康倶楽部むさし野の森	管理者	宮寺 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	人	1人	人	3人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・お客様情報が職員全員に周知できるように、情報共有の仕組みを見直し改善していく。	・責任番による朝・夕礼の実施、リーダー管理による回覧物の確認を実施。また、職員連絡ノートは、お客様情報と業務連絡が混在していたが、ファイルに分けて管理することで、わかりやすく職員への周知につながっている。	・お客様の情報共有の取り組みとして朝夕礼・ミーティングや回覧の工夫がされ申し送りの時間も確保できている。改善されていることが確認できた。 ・紙ベースの情報共有は職員全員周知には弱いと思う。	・お客様情報共有の場として朝夕礼は継続し、回覧物及び職員連絡ノート等、紙ベースの確認書類各種は適正に分類し簡素化を図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	・事業所の行事やイベントを認知症カフェの広報活動と併せて事前にお知らせし、地域の方々に参加していただけるよう取り組んでいく。	・認知症カフェは市の委託を受け、定期的に開催している。コンビニや公民館に開催のご案内を掲示・市民新聞を活用し広報活動はしているが地域の方々の参加には至っていない。	・事業所の行事やイベント・認知症カフェ等、広報の工夫はされ、地域の方々の参加を呼びかけている。継続したほうが良いと思う。 ・防災の観点からも施設の周知は必要。また、施設への抵抗感を軽減するためにも認知症カフェの活動がきっかけの一つとなると良い。	・特養ケアカレッジの野菜市に合わせた認知症カフェの開催及び地域防災訓練への参加、継続的な広報活動により地域密着型サービス事業所としての知名度を上げていく。
C. 事業所と地域のかかわり	・事業所全体で地域との関りが持てるように担当職員を輩出し、地域活動に携わっていく。 ・認知症カフェを通し、事業所周知に向けての広報活動を行う。近隣の地域密着型施設との交流の場となるよう呼びかけていく。	・地域活動は担当者を選出し管理者以外の職員が参加することができている。 ・各地域活動を通し他事業所との関わりも広がっている。近隣地域密着型施設との交流としては介護職員の研修受け入れができた。認知症カフェを通しての交流は図れていない。	・認知症カフェ開催時、介護相談窓口が設けられている。相談=利用とならないケースでも介護サービスが相談できる場として地域においての役割が担えていると思う。飛び込みの相談もあることから、相談者のニーズから各種サービスにつなげてほしいと思う。	・認知症カフェの介護相談窓口は専門職を配置し相談者のニーズに合わせた各種サービスにつなげていく。また、地域の方々が認知症及び認知症カフェの目的を理解し活用につなげられるよう認知症サポーター養成講座を開催する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	・外出行事はお客様を交え企画立案し地域に出向いていく。また、ご家族様と連携を図りながら地域資源を活用し、ご本人の希望に沿った外出ができるように支援していく。	・4月お花見、6月の新緑散策等、お客様と一緒に企画立案することができた。長期泊り利用のお客様は郵便物の確認を含めご自宅までの外出支援も行っている。また、ご家族の都合から定期受診が困難な時は、早期に対応しご本人が通い入れた病院への通院同行もできている。	・改善計画に対する取り組みはされていることが確認できた。 ・小規模多機能の多種多様なサービスをお客様の希望に沿って提供できている。今後も継続してほしいと思う。	・外出行事はお客様と一緒に企画立案し、地域に出向いていく。ご家族様と連携を図りながら、地域資源を有効活用し、ご本人の希望に沿った外出支援を行う。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	・運営推進会議の活性化については介護保険課、地域包括支援センターの協力をいただきながら構成メンバー増員に向けての取り組みを継続していく。	・運営推進会議構成メンバーの増員については近隣の小中学校やお客様ご家族へご協力いただけるように働きかけているが、学校・就労の都合により参加は難しく増員には至っていない。	・三ヶ島第一包括紹介の長生クラブの方々の出席につながれば、自治会との関係も深くなるので良いと思う。 ・ご家族様の出席につながるよう、認知症カフェ開催に併せた土曜日の運営推進会議も検討されてみてはどうか。	・施設利用のご家族様が参加しやすいように、運営推進会議を土曜日に開催する。また、認知症カフェと併せた会議体を設け、施設活動の周知につなげる。
F. 事業所の防災・災害対策	・事業所防災計画は年度初めに具体的内容も含め運営推進会議で説明していく。防災訓練の予定を運営推進会議に合わせ構成メンバーの方々に参加していただく。 ・地域防災訓練は地区役員と連携を図り継続して参加していく。また、職員だけではなくご利用者様と参加していく。	・防災訓練計画については施設内掲示及び会議体で説明することができた。防災委訓練と併せた運営推進会議は実施できていない。 ・今年度、地域防災訓練は雨天のためお客様参加できなかったが職員は継続的に参加できている。自主防災訓練の炊き出し訓練にはお客様も参加することができた。	・防災訓練は法定訓練にこだわらず、自主防災訓練に併せて運営推進会議をされてはどうか。どのような訓練が行われているのか、どのように対応していくのかが可視化できるのではないかと。	・運営推進会議開催に併せて施設自主防災訓練を実施する。構成メンバーの方々に参加していただくことで防災訓練の可視化を図る。